はるかだより

10周年記念

第10号

発行：社会福祉法人はるか　〒740-0011　山口県岩国市立石町３丁目6-25　TEL 0827-28-6085　FAX 0827-28-6086



ごあいさつ



社会福祉法人はるか
理事長　川　村　宏　司

このたび、社会福祉法人はるかは、法人名を「あけぼの寮」から改め、岩国市に拠点を移して10周年という大きな節目を迎えることとなりました。

この記念すべき日を迎えることができますのは、これまで支えてくださった地域の皆様、関係機関の皆様、そして日々尽力してまいりました職員一人ひとりの力の賜物であり、心より深く感謝申し上げます。

法人名の変更と移転は、私たちにとって新たな出発であり、より地域に根ざした福祉の実現を目指す決意の表れでもありました。この10年間、社会の変化に向き合いながら、多くの方々との出会いと支えにより、今日の基盤を築いてまいりました。

これからも初心を忘れることなく、一人ひとりに寄り添う支援を大切にしながら、地域に信頼され続ける法人として歩みを重ねてまいります。そして次の10年に向けて、さらなる発展と成長を目指してまいります。

本記念誌が、これまでの歩みを振り返るとともに、未来への希望を共有する励ましの一助となれば幸いに存じます。今後とも変わらぬご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

お祝いメッセージ



社会福祉法人はるか 移転10周年に寄せて

山口県岩国児童相談所
所長 **升　田　弘　子**

このたび、社会福祉法人はるか様が岩国の地に移転されてから 10 周年の節目を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。地域の子どもたちが安心して暮らし、自分らしく成長していけるよう、日々あたたかく寄り添ってこられた歩みに、深く敬意を表します。

この 10 年間、生活の土台づくりから毎日の小さな喜びまで、一人ひとりの思いに耳を傾け、安心できる環境を丁寧に育んでこられました。職員の皆さまの思いのこもった専門的な支えが、子どもたちの笑顔や自信、そして未来へ向かう力につながっていることを、折に触れて実感しています。

私ども岩国児童相談所にとっても、子どもの最善の利益を優先した支援を進めるうえで、貴法人との連携は何より心強い支えです。

日ごろより当所との連携に格別のお力添えをいただき、厚くお礼申し上げます。子どもを取り巻く環境が変化するなか、子どもと家庭への支援は、これまで以上に大切になっています。これからも関係機関の皆さまと力を合わせ、支援体制の一層の充実に努めてまいります。

結びに、移転 10 周年を新たな出発点として、貴法人のさらなるご発展と、子どもたちの健やかな成長、そして職員の皆さまのご健勝を心よりお祈り申し上げます。

はるかだより 10周年記念号へ寄せて

岩国市こども家庭センター
センター長 **藤　本　志保美**

このたびは、貴法人におかれましては、岩国市への移転 10 周年という記念すべき節目を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。

移転から 10 年間、児童福祉の分野において、児童養護施設、相談支援、地域子育て支援拠点「はるちゃん広場」、児童育成支援拠点事業「街かどap」の整備などを通じ、地域の子どもたちの居場所として力強く支えてこられました。貴法人の不断の努力と、子どもたちへの温かい眼差しは、私たち行政職員一同、深く感銘を受けております。

とくに、困難を抱える子どもへの迅速できめ細やかな支援は、地域における児童福祉の質を大きく向上させ、多くの子どもたちの未来を明るく照らしました。

岩国市も令和 5 年度に母子保健機能と児童福祉機能を併せ持ったこども家庭センターを開設しましたが、切れ目ない支援を行うことや要保護児童対策地域協議会の運営において、貴法人が岩国市にあることの心強さをセンター長として、実感する日々です。こども家庭センターといたしましては、今後とも貴法人との連携をより一層強め、地域全体で子どもたちを育む体制を構築していく所存です。

末筆ではございますが、貴法人の更なるご発展と、職員の皆様のご健康を心よりお祈り申し上げます。

いいね！ なるといいね！

社会福祉法人はるか
理事 **森　川　利　春**

岩国へ移転してもう 10 年になるとのこと、月日の経つのは速いなと感じます。

10 年ひと昔と言いますが、まさにこの間多くの

取り組みがなされ、地域への貢献度ははかり知れないものがあります。10 年の間に、岩国地域だけでなく、他市町や広島県まで手を広げ、子どもへの対応のみならず、大人への相談業務まで専門的な取り組みへと拡張していった行動力には、ただただ目を見張ることしかできませんでした。

手を広げると職員の数も増えその育成、つまり、一人ひとりの特性をつかみ生かす大変なリーダーシップが求められるわけです。しかし、その難問をも近年、中間管理職的な人が育っており、組織としてよい方向へ進歩することで突破している。

いろいろな生育歴のある子ども達へ、「家庭の温もりを味わわせる」を大前提として、のびのびと暮らしていける配慮がなされていて、素晴らしいと思います。子ども達の笑顔に接したとき、職員の皆様の温かい見守りと努力の賜物だと思わずにはいられません。

さて、広く「はるか」の未来を思い描いてみますと、晴れわたる空の元、たくましく生き抜く「はるか」の子ども達、優しい目で見守る職員達、そこには充実した時と空間が存在している。いいね！ なるといいね！

ライクホームから ライク「ホームタウン」へ

社会福祉法人はるか
理事 松 宮 透 髙

情島への小さな渡船で潮のしぶきを浴びた日から、もうこれほどの月日が経ったとは。移転開設 10 周年、おめでとうございます。

「ライクホームはるか」としての歴史も、この地に深く刻まれました。地域に祝福され、数々の新機軸が目を引き、信頼され歓迎された 10 年であったと思います。

無論、たくさんの葛藤や心配やご苦労があったとはしても、おかげさまで幸せなハネムーン期だったといえるでしょう。

ここで暮らすこども、巣立った若者たちにとって、さらには養育者の皆さん、里親・里子の皆さん、地域で子育てに取り組む市民の皆さん、関係者や応援団の皆さんにとって、安心できる「ホーム」のような場がより深く広く根付くことを願います。

これから浴びるしぶきはもう少し違うものになるかも知れませんが、「はるか」が育んだ眼差し、ワザ、ご縁を活かして、みなが包まれ安心感のある「まち」づくりへと、さらに繋げたいものですね。

幸せとは

社会福祉法人はるか
理事 大 川 幸 枝

児童養護施設の子どもたちとのかかわりが始まったのは、情島小中学校へ赴任した平成 17 年です。私はこの時から、「何をもって幸せというのだろうか」ということを自分自身に問い続けています。

あけぼの寮からはるかへと引き継がれ、この 10 年の間に、事業内容は大きく広がってきましたが、この流れの中でずっと変わらずにあるものは、職員の皆さんが子どもたちへ寄せる熱い思いだと感じています。

それは、子どもたちの幸せを願う気持ちであると言えるでしょう。一人ひとりの子どもが幸せな人生を歩んでいくことができるようにと、子どもをとりまく人々が懸命にかかわっている姿を見るにつけ、崇高なものを感じます。

養育に始まり、居場所づくり、食の提供、家庭への支援など、今やはるかは、地域になくてはならない機関としての機能を果たしています。今後も“ららみんな。”を合言葉に、新たな歴史を築いていかれることを願います。

未来へつないで

社会福祉法人はるか
理事 藤 田 久 美

移転から 10 年という大きな節目を迎えられましたことを、心よりお祝い申し上げます。

この 10 年間、はるかは多くの子どもたちと出会い、一人ひとりの人生に寄り添いながら歩んでこられました。子どもたちは、安心できる居場所の中で愛される経験を重ね、人とのつながりを育みながら成長してきたことでしょう。その日々の積み重ねこそが、子どもたちの未来を支える大切な力になっていると感じます。

また、はるかは子どもたちの成長を支える場であると同時に、支援者自身も子どもたちとの出会いを通して学び、悩み、喜びながら成長できる場所でもあります。子どもたちの笑顔や挑戦する姿は、私たち大人に多くの気づきと希望を与えてくれます。

社会が大きく変化する中にあっても、子どもの最善の利益を大切にしながら、一人ひとりが「ここにいてよかった」と感じられる居場所であり続けてほしいと願っています。そして、はるかで過ごした子どもたちの幸せな記憶と、支援者の温かな実践が次の世代へと受け継がれ、これからの 10 年、20 年へと豊かな未来をつないでいくことを心より期待しています。

いつまでも 心のよりどころに

社会福祉法人はるか
理事 新 谷 敏 郎

社会福祉法人はるか設立 10 周年、おめでとうございます。

この喜ばしい瞬間、同じステージに立ち合わせていただけますことを心よりうれしく思います。

思えば法人の運営に携わらせていただくようになってから 10 年目を迎えたわけです。そしてライクホームはるかの職員として採用していただき、現在街かど ap で地域支援のカテゴリーのひとつを担わせていただいていることも、何か大きな縁の力に因るものだと感慨深いものがあります。

この 10 年、日本を含めた世界各地ではさまざまなことが起き、社会情勢が不安定な状況に置かれています。社会情勢と社会的養育で生活する児童数は比較的同期すると言われていますが、入所しているこどもたちも日々それらの脅威に晒されてきました。

そのようななかホーム職員のみなさんはこどもたちに寄り添い、こどもたちにとって安全な生活環境を保全し、こどもたちが安心できる人間関係構築に努めておられることだと思います。

このような時代だからこそ、ライクホームはるかで育ったこどもたちがやがて社会人となった時に、心のよりどころとなるであろうホーム職員のみなさんとの関係性こそが、かけがえのないものになるはずだと思っております。

また、社会的養育におけるこどもの養育とは何なのか、個々のケースを考える際など基本に立ち返る意識を持つことで、ホーム職員のみなさんにとってかけがえのないものを獲得することに繋がるはずです。

何より、入所前には一番に考えてもらえなかったのかも知れない、ホーム職員のみなさんの目の前にいるこどもたちを、ホーム職員のみなさんなら一番に考えていただけるはずです。

結びに、社会福祉法人はるかのますますのご発展と、こどもたち、職員の皆様の健やかな日々を心よりお祈りし、エールの言葉といたします。

地域に根ざした温かな雰囲気で

社会福祉法人はるか
監事 賀陽 寛

10 年前、情島のあけぼの寮が閉寮。岩国市に新たに「ライクホームはるか」として移転して来られました。私にとって「ライクホームはるか」は、家庭に代わるあたたかな家というイメージで、子ども一人ひとりに寄り添い、子ども達の成長を支え続けておられます。

家庭的な雰囲気の中で築かれる子ども達との信頼関係は、大きな安心につながっていると思います。また、「ライクホームはるか」を起点とし、児童家庭支援センター・自立援助ホーム等…と地域の子育て支援の拠点、自立支援にも力を入れられ、社会全体を支える取り組みへと大きく支援を広げておられます。

未来を担う子ども達が、夢や希望を育んでいかれるよう、これからも地域に根ざした温かな雰囲気の「ライクホームはるか」であることを願っております。

はるかだより

社会福祉法人はるか
監事 林 田 徳 夫

私は、令和７年から監事に就任しました。令和７年 12 月 21 日に岩国国際観光ホテルで開催された理事会の後、「クリスマス会」を皆さんと一緒に楽しくすごさせていただきました。終了後は、ホテルの温泉につかり、岩国城や錦帯橋をゆっくりと眺めていました。

はるかには、宇部児童相談所に勤務していた当時、竣工式でお邪魔させていただき、できたばかりの建物を見せていただき住みやすそうなところだなと感じたことを覚えています。

今回、原稿の依頼があった際、何か良い写真がないかと探してみたところ、2024 年 11 月３日に、柳井から松山に向かうフェリーの船上から撮った情島の写真が見つかりましたので送らせていただきました。写真を撮ること、レノファ山口のゲームを観戦すること、遠くに出かけることが最近の楽しみになっていますので、今住んでいる山口から、岩国や松山に足を運びたいと思っています。



はるか 10 周年記念にあたって

社会福祉法人はるか
評議員 川 﨑 壽 夫

前回はるかだよりに寄稿したのは、私が理事を退任した折でした。そしてまた、はるか子どものネットワーク（旧安全委員会）をこの３月に退任した折、はるか 10 周年記念にあたるこの紙面に寄稿することに。はるかとの縁の深さを感じるものがあります。

現在はるかの評議員はまだ継続していますが、周防大島では東和小学校運営協議会に属し、子どもたちに歌を歌ったり遊んだり、ふれあっています。また、地域の知的障がい者施設へも関わりを深め継続しています。

はるかのこの 10 年は、子どもたちの成長から自立へ向けてのたゆまぬ努力を重ねられ、着実に成果を重ねられています。さらに、社会や地域の要請、子どもたちのニーズに応える施策を多様化させ、

より充実させてきていることは周知の事実です。

このようなはるかに関われたことは、私にとっても大いに喜ばしいことでした。

先日、平生ポコアポコの子ども食堂で子どもたちに歌う機会をいただきました。これからもできる支援を続けたいと考えています。

10周年おめでとうございました。

あけぼの寮から ライクホームはるかへ

社会福祉法人はるか
栄養士 浅　海　加寿美

あけぼの寮の栄養士として12年間情島で勤務しました。島の中にはお店がなくて、食材は島外に卸に行く商店さんに、1週間前から注文書を渡して買ってきてもらっていました。台風や海が荒れた日は渡船が欠航して、商品が入らないことも何度もありましたが、調理員さんと食材を確認して献立を変更した事も思い出の一つです。買える食材も限りがあり、こどもたちにも不自由な思いをさせたと思います。そんな中でも、「今日のご飯おいしかった！また出してね」と言われる時が一番うれしかったことを覚えています。

岩国移転が決まってからは、研修や見学に行かせていただき何とか今の形を作ることができました。岩国に移転してこどもたちは食べることに対して、自由で幅が広くなったことと思います。ファストフードにはない家庭的な献立を心がけてきましたが、こどもたちが大人になった時に「はるかの食事が懐かしい」と思えるような献立をこれからも考えていきたいと思います。

まだ改善点はたくさんありますが、栄養の摂れた献立と職員さんの心のこもった食事を食べて、元気にすくすくと育ってくれることを心より願っています。

あけぼの寮から ライクホームはるかへ

社会福祉法人はるか
職員 坂　岡　亜由美

ライクホームはるかの前身であるあけぼの寮に入職して36年目を迎えました。

あけぼの寮は、周防大島町の東の端、情島という離島にある大舎制の施設でした。入所してくる子どもたちにとっては、環境変化もあり不安も大きかったと思います。

けれども、島には島の良さもあり、つねに島の方々や学校の先生方に見守られ応援していただいているという温かい環境でした。また、自然の中で子どもたちは毎日元気に走り回っていました。

ただ、とても良い環境でしたが、あけぼの寮では、15歳、中学校卒業時には退所しなければならないという状況がありました。これは、情島からでは高校へ通学することができないからで、高校進学をする子は他の施設へ措置変更するか里親委託になるか、家庭復帰するかで、子どもたちにとっては、またここで大きな変化が強いられる状況でした。

平成27年に周防大島町久賀にグループホームができ、平成29年にはライクホームはるかが開設し、中学校卒業後もそのまま高校進学ができる環境、また高校卒業後も上の学校への進学も考えられるようになりました。長く同じ大人と一緒に生活していける環境というのは子どもたちにとっては精神的支えにもなり安心感を得られる大切なことだと思い、そのような環境になったことをうれしく思っています。

現在、私は里親支援専門相談員として勤務しています。里親さんや委託された子どもたちに関わる中で、同じように養育者が変わらず子どもたちに関わることの大切さを日々感じています。

私自身にできることは少ないですが、これからも知識を広げ、もう少し児童養護の世界で頑張りたいと思っています。

移転10周年を祝して

野口労務管理事務所
顧問社会保険労務士　野　口　和　正

社会福祉法人はるかの皆様、並びに関係者の皆様、岩国への移転10周年、誠におめでとうございます。

かつて周防大島で紡がれていた、どこか懐かしく穏やかな日常は、岩国の地へと受け継がれ、笑顔と活気に満ちた新たな日常へと大きく広がっていったように感じます。子どもたちを取り巻く環境にとっても、この移転は大きな転換期であったのではないでしょうか。

また、川村理事長のご奮闘は、今でも強く記憶に残っております。とくに移転の1～2年前から続いた毎日の長距離移動、数多くの関係者との協議や調整は、並大抵のものではありませんでした。屈強な川村理事長でも倒れてしまうのではないかと本気で心配しました。その強い責任感と行動力、そして情熱があったからこそ、子どもたちや職員の皆様にとって、現在の温かく充実した環境が築かれたのだと思います。

私は子どもたちと接する機会は多くありません。しかし社労士として、職員の皆様が安心して働ける環境づくりを通じて、間接的に子どもたちの生活を支える一端を担えたこと、そして子どもたちの未来に少しでも関わることができたことを大変光栄に思っております。

あけぼの寮のこれまでの歩みに深い敬意を表するとともに、社会福祉法人はるかの皆様の今後ますますのご発展を心よりお祈り申し上げます。

出逢いに感謝

顧問税理士　辻　　涼　子

川村理事長は今でもネタにされていますが、初めてあけぼの寮を訪問した日、まったく思いもしていなかった漁船に乗せられ、情島に降り立つと船酔いで目が回り真っ直ぐ歩けず桟橋の木の隙間にピンヒールがはまり動けなくなるという、まさにコントみたいな事態に陥りました。

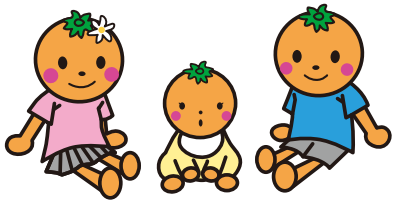
そして施設に入ると昭和40年代にタイムスリップしたような光景の中で健気に生活している子ども達にお会いした衝撃は今でも鮮明に記憶しています。

そこから理事長はじめ職員さんの尽力とさまざまな関係者の方々のご協力で「はるか」が誕生しましたが、その道程を会計という側面だけではありますが、側で関われたことは私の税理士人生でも貴重な経験でした。本来児童養護施設が不必要となるのが理想の社会ですが残念ながらその必要性は年々増す一方です。

はるかの子ども達が職員の方々とすごす日常の中で幸せ、苦しみ、さまざまな感情を体験しながらこの厳しい社会をしっかりと自分の力で切り開いていける大人に成長した時、はるかが心のよりどころになる施設であってほしいと思います。

税理士業には本来あまり縁のない業界ですが川村理事長とのご縁から長い間顧問をさせていただき税理士の業務としてたくさん勉強させていただいたのはもちろん私個人としても多くのことを学び考えさせられる大変ありがたい年月でした。

改めて貴法人の関係者皆様との出逢いに心より感謝申し上げます。



事業所紹介

自立援助ホーム Re:HARUKA

自立援助ホーム Re:HARUKA は、2018 年から男女定員6名で児童自立生活援助事業を開始し、2021 年からは定員を男女9名に増員しました。義務教育を終えた 15 歳以上の者が対象で、社会で自立した生活を送るための準備をしながら暮らしています。

私たちは、入居者の、①衣食住を整える、②思いをそのまま受け入れ「なりたい自分」になるための道筋を一緒に考える、③その子なりの自立の準備をする。これらの支援に努めてきました。個々との関わりを重視し、入居者と対等に話をしながら目標を立てます。そして失敗をしても否定せず評価し、成功は共に喜び、その経験を繰り返しながらステップアップできるよう寄り添ってきました。

Re:HARUKA が考える自立とは、困った時に相談できる大人がいること、気持ちが落ち着く居場所が増えることです。今後も入居中だけでなく、退居後も変わらず、“なんか頼れる”“ちょっと聞いてみよう”と思い出してもらえる存在でありたいと願っています。



地域支援スペース がじゅまる

児童家庭支援センター開所後、地域の親子が安心して集い、気軽に相談できる場所づくりを目指し、まずは親子ヨガのイベントをスタートしました。

子育て中の親子が参加しやすい場を通して、児童家庭支援センターを地域の方々により身近なものとして知っていただきたいという思いから始まった取り組みです。その活動を広げていく中で、新たな拠点として地域支援スペース「がじゅまる」を開設しました。名前には、さまざまな人が集い支え合う場所でありたいという思いを込めています。

「がじゅまる」では、岩国市地域子育て支援拠点事業（連携型）を受託しており、「はるちゃん広場」とした親子ヨガをはじめ、子育てイベントを開催しています。

活動を通して保護者の声を聞く中で、「生後 6 か月までは保育園も利用できず、預け先がない」という地域のニーズが見えてきました。

そこで、保護者が少しでも安心して過ごせる時間を持てるよう、親子支援の一環として無料託児を開始しました。これからも、地域の声に耳を傾けながら、親子に寄り添った支援を続けてまいります。



はるかこどもの相談センター

多くの方々にお力添えいただいたおかげで、平成 29 年 4 月に「あけぼの寮」は「はるか」として岩国市へ移転し、同年 8 月に児童家庭支援センター「はるかこどもの相談センター」を開所しました。

開所にあたっては、岩国児童相談所や岩国市役所、教育委員会、医療機関など、多くの関係機関の皆さまにご協力をいただき、地域の中で子どもと家庭を支える体制づくりを進めてまいりました。

開所当初は年間 334 件だった相談件数も、令和 7 年度には 5,460 件となり、子育てや家庭に関する悩みを抱える方が安心して相談できる場所として、少しずつ地域に根付いてきたことを感じています。相談内容も、子育ての不安や不登校、家庭内の悩みなど多岐にわたり、継続的な支援や関係機関との連携の重要性を日々実感しています。

子どもたちを取り巻く環境や課題は年々複雑化しており、支援には地域全体でのつながりが欠かせません。私たちは「困ったときにまず相談してみよう」「ちょっと話を聞いてもらおう」と思っていただける身近な存在でありたいと考えています。これからも、子どもと家庭に寄り添いながら、安心して暮らせる地域づくりに努めてまいります。

街かどap



街かど ap は令和5年 11 月に、誰もが立ち寄れる居場所として岩国市に創設されました。こどもにとっての another place（居場所）、おとなにとっての access point（拠りどころ）となるようにと、頭文字をとって街かど ap と名称を付けました。

初年度は山口県のモデル事業、昨年度からは岩国市の児童育成支援拠点事業を受託し、また今年の1月からは岩国市教育委員会との協働により街かど ap に来所することで登校扱いとなる事業も始まりました。街かど ap への関わりを通し、学校でもなく家庭でもない“第3の居場所”が特定の家庭だけではなく、社会的にも需要が高まっていることを実感する日々です。

街かど ap では常に個々のニーズに合わせた対応を心がけてきました。必要に応じて関係機関との連携を図りながら、街かど ap が通過点となり、それぞれの最適なゴールにつながるよう、これからも誰もが気軽に立ち寄りたくなるような場所であり続けたいと思います。

ゆうなんこども
家庭支援センター

ポコ・ア・ポコ

令和４年４月から､平生町曽根にセンターを構え､平生町･田布施町の委託３事業（こども家庭センター児童分野・地域子育て支援事業･養育支援訪問事業）を実施しています。

相談支援、未就学親子の居場所支援が主な業務ですが、“ポコ・ア・ポコ”（イタリア語で「少しずつ～する。」という意味）の言葉どおり、私たちは、「少しずつ少しずつゆっくりとやっていきましょう。一緒に寄り添っていきます。」という想いで活動をしています。支援していく中で利用者様のニーズを形にしたのが、ら・ら・ら　みんな食堂（こども食堂）と中高生カフェ（中高生の居場所支援･学習支援･食糧支援）です。いつもの場所でいつもの人がいてそのつながりの中で「この人なら話をしてもいいかな？」と思ってもらえるような関係づくりを大事にしています。人と人がつながって、話をじっくり聴いてもらうことで、楽しい事は二倍になって、悲しい事は半分こになります。これからもそんな“ポコ･ア･ポコ”でありたいと思います。



ファミリーホーム母譜

ファミリーホーム母譜は、平成 26 年広島市西区で開設しました。今年で 13 年目を迎えます。

いろんな音色（個性）をもったこどもたちと里親さんとの生活で､心地よい音色（生活）になるようにという想いが、母譜（もっぷ）の名に込められています。

この名の通り、個性豊かなこどもたちが揃っており、面白い毎日が繰り広げられています。

現在は男子 3 名、女子 1 名のこどもが生活しています。この 12 年の間には、ここから自立していったこども、家庭引き取りとなったこどもとさまざまです。

母譜が、こどもたちにとって安心して自分を委ねられる場となるよう、これからもこどもたちとの生活を大切に日々過ごしていきたいと考えています。

法人沿革



昭和 26 年 8 月	定員 20 名の養護施設として山口県知事より認可
昭和 32 年 10 月	社会福祉法人あけぼの寮として厚生大臣より認可
平成 27 年 7 月	グループホーム「歩」周防大島久賀へ開設
平成 28 年 4 月	グループホーム「いろ葉」岩国市麻里布へ開設
平成 29 年 4 月	岩国市立石に移転新築 社会福祉法人はるかに改名 ライクホームはるか開設　４棟のホーム形式 ファミリーホーム吉田～母譜～運営開始（広島市） ファミリーホーム母譜運営開始（広島市）
平成 29 年 8 月	児童家庭支援センター「はるかこどもの相談センター」岩国市へ開設
平成 30 年 4 月	自立援助ホーム「Re:HARUKA」山口市内に開設
令和 元 年 7 月	岩国市委託事業「麻里布第二放課後児童教室」開設
令和 4 年 4 月	平生町・田布施町委託事業「ゆうなんこども家庭支援センター『ポコ・ア・ポコ』」開設 はるか地域支援スペース「がじゅまる」岩国市山手町へ開設
令和 5 年 4 月	ライクホームはるか一時保護棟（定員 6 名）開設
令和 5 年 11 月	こどもの居場所づくり事業開始「街かど ap」
令和 7 年 2 月	「ファミリーホームえん」岩国市保津町へ開設
令和 7 年 4 月	「児童育成支援拠点事業」岩国市より委託
令和 8 年 4 月	地域小規模児童養護施設「ホーム大空」岩国市室の木町へ開設



新任職員紹介



Re:HARUKA
五島　悠佑

①はるかで働いて

利用者のみんなが前に進む手伝いが少しでもできるよう、自分に何が伝えられるかを考える日々です。自分の学生時代のことや、少し変わった社会人経験を生かし、今伝えられることを精一杯届けたいと思っています。

②これからの目標

まずは早く業務に慣れ、相談しやすい関係性づくりを目指します。そして、自分の進みたいと思える夢や進路に挑戦できるよう準備の段階から寄り添い、その一歩を支えられる職員を目指して日々成長していきたいです。



ゆうなんこども
家庭支援センター
宮本　夕子

①はるかで働いて

地域に根ざした支援の多面さと、相談業務の重さに驚きながら働いています。個々の家庭背景に寄り添うことの難しさも痛感しました。福祉のプロである皆さんから、ご家族の笑顔を守るための制度や関わり方を学んでいます。

②これからの目標

安心して相談いただけ安らかな居場所を提供できるように、一人ひとりの想いに寄り添い接するよう心掛けます。また地域にたくさんあるリソースを把握し、最適な支援を提案できるよう勉強していきます。



心理担当職員
松前　遥

①はるかで働いて

まだまだ不慣れなことも多いですが、子どもと関わるうちにいろいろな様子を見せてくれるようになると、とてもやりがいを感じます。職員の皆様からはもちろんのこと、子どもたちから学ばせてもらうことも多い日々です。

②これからの目標

目の前の子どもと向き合うことを大切にしつつ、将来を見据えた支援をすることを意識していけたらと考えています。子どもたちが安心して過ごすための一助となれるように精進してまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



ホーム大地
田畑　美香

①はるかで働いて

はるかに入職して私のこれまでの経験は一旦置いて、率直に現場を見てあらためて社会に必要な場だと感じています。

子どもたちの日々の生活が健康的に成立し、安心して朝を迎え夜眠る。基本的な当たり前を提供する場として存在し続けることの必要性を感じました。必要性は強く感じつつも正直な気持ちとしては「とても難しい、とてもとても難しい仕事」だとも感じています。入職して現場に入ってみないと分からなかった正直な感想です。

②これからの目標

現場に入って初めて感じたその「難しさ」とどう向き合っていくのか、主観的ではなく客観的に考えられるよう先輩方の力をお借りしながら自分の考えに幅が持てるようになることはこれからの自分に必要な目標だと思っています。

これまで療育現場で発達の遅れや生きづらさのあるこども達に寄り添い支援を提供した後、自宅へお送りする日々を繰り返してきました。そうやってこども達の「社会」で関わってきましたが、はるかで「家庭」で関わることにチャレンジしている今。

これからは、今までとは逆の場に存在していることで戸惑いもありますが、まずは子ども達がそれぞれの「社会」で頑張ってきた後「今日も一日頑張ったね」の気持ちで「お帰り」と迎え入れる「家庭」の一員でありたいと思っています。



ホーム青空
武林　望心

①はるかで働いて

様々な個性をもった子どもたちとトランプやオセロで遊んだり、一緒に計算ドリルや漢字練習といった宿題をしたり、時にはテレビを見る時間でケンカすることもありながら楽しく過ごしています。

②これからの目標

子どもたちが楽しく過ごすことのできる生活を守れるように努力していきます。また、子どもたちが学校に遅刻しないための時間配分や子どもへのしかり方、褒め方といった関わり方、子どもへのわかりやすい伝え方を実践しながら学んでいきたいです。



ホーム大河
末廣　風和

①はるかで働いて

4 月から初めて経験することばかりで、緊張や戸惑いを感じる毎日だった。しかし、子ども達の笑顔や成長に支えられ、少しずつ仕事の楽しさややりがいを実感できるようになった。一つずつ確実に職務を全うしていきたい。

②これからの目標

子ども一人ひとりの気持ちに丁寧に寄り添い、安心して過ごせる環境をつくることのできる職員になりたい。また、先輩方から学びながら、自分自身も成長し続けていきたいと考える。



看護師
満井　智子

①はるかで働いて

子ども達の優しい笑顔に癒されながら、日々業務に励んでおります。業務に関してはいまだ理解が不十分な点ばかりですが、職員の皆様にご指導いただきながら一つ一つ理解を深め、着実に習得できるよう努めております。

②これからの目標

こども達にとって安心でき、頼りにされる存在となれるよう努めてまいります。また、職員間での情報共有を大切にし、適切な支援につなげていきたいと考えております。

There is no place like a home.

社会的養護を必要とする概ね 0 ～22 歳の子どもたちが自分のお家で生活しています。ここは、ホーム職員と日々変わることのない当たり前の生活を通して一喜一憂しながら護られていることを実感して自立していく子どもたちの居場所です。（児童福祉法に基づく児童養護施設）



ご支援者

ご寄付

・医療法人社団毛利小児科様
・松田洋子様
・AIMD IWAKUNI 様
・株式会社ビジコム様
・海田達朗様
・藤井汽缶工業株式会社様
・高瀬稔彦様
・重田糾夫様
・株式会社 TS 保険企画様
・ハシモト様
・荒田賢洋様
・細井和男様
・Shaune Watley 様
・海嶋祐之様
・濵中さおり様
・明吉小百合様
・三木康二様
・宮田亮司様
・生活協同組合コープやまぐち様
・岩国地区更生保護女性会
　河本かおる様
・匿名の方

ご寄贈

・株式会社 TS 保険企画様
・あさひ製菓株式会社様
・岩国広印青果株式会社様
・岩国青果卸売組合様
・岩国青果物仲買人組合様
・株式会社田井ファミリー様
・株式会社準組様
・餃子の王将様
・ときわ不動産株式会社様
・国際ソロプチミスト岩国様
・コストコホールセールジャパン様
・全国シャンメリー協同組合様
・日本鏡餅組合様
・ぱんのきもちのぴ様
・株式会社丸久様
・株式会社フレーベル館様
・みちよ歯科医院様
・立正佼成会様
・お菓子工房　実と葉様
・フェイスバプティスト教会岩国様
・結埜音様
・共進株式会社様
・ほっともっと様
・株式会社サン・リフォーム様
・株式会社 Daska＆Desiree 様
・有限会社ながみ屋様
・株式会社藤本ファーム様
・木徳神糧株式会社様
・株式会社セブンイレブンジャパン様
・生活協同組合コープやまぐち様
・山口県遊技業協同組合様
・陽明商事様
・公益財団法人 中部財団様
・毎日新聞西部社会事業団様
・医療法人社団毛利小児科様
・岩国市カヌー協会様
・株式会社大進本店 岩国店様
・住マイルカンパニー様
・上重典子様
・岡森隆一様
・勝本正子様
・高瀬稔彦様
・中村勝俊様
・藤谷清美様
・吉中清美（平田工務店）様
・松田洋子様
・山本美由紀様
・濵中さおり様
・高瀬範夫様
・寺岡美奈子様
・新庄富士子様
・橋本尚理様
・山本美由紀様
・手嶋淳子様
・田村覚志様
・坂本健治様
・タイガーマスク様
・笹川様
・岩﨑　翔様
・岩田信良様
・橋本知也様
・橋本欣也様
・中村　豊様
・原田美恵子様
・河本美佐子様
・森田雪江様
・川﨑主税様
・平田富士雄様
・虎谷恭明様
・藤田修治様
・細川一昌様
・岩国米軍基地内クリニック
　有志のみなさま
・立石町ハロウィン実行委員様
・匿名の方



体　験

・カヌー体験
・とことこトレイン
・農業体験
・人形劇鑑賞
・カープ観戦

この他、地域および匿名の方々より、寄付金・お米・お野菜等をたくさんいただいております。
誠にありがとうございました。
【令和７年４月１日～
令和８年３月 31 日まで】





